

平成20年度 決算概要について

1. 平成20年度 営業概況

立山黒部アルペンルートの当期入込人員は、4月オープンから8月上旬までのシーズン前半は国内・訪日旅客ともに大変好調に推移したが、シーズン後半は金融危機等の影響により、訪日旅客を中心に前年を下回る事となった。

しかし、シーズン全体では富山側52万9千人(対前年109%)、大町側48万6千人(対前年104%)、合計101万6千人(対前年106%)となり、2年ぶりに入込100万人を達成した。

①国内入込人員(887,800人 前年比 106% +48,300人)

昨年3月に発生した能登半島地震の影響を払拭するための積極的な誘客活動と「雪の大谷ウォーク」のゴールデンウィーク開催、好天が相まって4～7月は順調に推移した。しかし、8月はゲリラ雷雨などの天候不順、9月以降は金融危機による景気後退で、シーズン終了まで前年を下回った。

②訪日入込人員(127,700人 前年比 111% +12,300人)

国の「ビジット・ジャパン・キャンペーン」事業や富山県の招聘事業と連携したPR活動が功を奏し、台湾からの入込は雪の大谷ウォーク開催時期(4～5月)の富山チャーター便ならびに定期便が好調に推移した結果、9万人台に到達した。また、韓国、香港、中国も順調に推移したが、9月以降は金融危機による急激な円高、株安の影響等もあり、シーズン終了まで前年を下回った。

●アルペンルート入込人員実績

(単位:人)	平成19年度 実績	平成20年度 実績	増減	前年比
入込合計	954,900	1,015,500	60,600	106%
富山入込	486,600	529,100	42,500	109%
大町入込	468,300	486,400	18,100	104%
〈国内・訪日〉				
国内入込人員	839,500	887,800	48,300	106%
訪日入込人員	115,400	127,700	12,300	111%
台湾	87,500	94,600	7,100	108%
韓国	19,500	19,900	400	102%
香港	4,950	8,700	3,750	175%
中国	250	550	300	224%
その他	3,200	3,950	750	123%

●ホテル宿泊人員実績

(単位:人)	平成19年度 実績	平成20年度 実績	増減	前年比
宇奈月国際ホテル	29,432	29,290	△142	100%
ホテル立山	32,347	34,345	1,998	106%
弥陀ヶ原ホテル	14,823	15,851	1,028	107%

※ 「宇奈月国際ホテル」は、立山黒部貫光(株)が、「ホテル立山・弥陀ヶ原ホテル」は、立山貫光ターミナル(株)が経営しております。なお、平成21年4月1日より「宇奈月国際ホテル」の経営は、立山貫光ターミナルへ移管いたしました。

2. 決算の概要

立山黒部貫光 (単体)

◇貸借対照表◇

(単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	686	流動負債	1,215
固定資産	11,264	固定負債	2,650
業務用固定資産	8,501	負債合計	3,866
投資その他の資産	2,762	(純資産の部)	
		株主資本	7,343
		資本金	4,160
		利益剰余金	3,508
		(繰越利益剰余金)	(264)
		自己株式	△ 325
		評価・換算差額等	741
		純資産合計	8,085
資産合計	11,951	負債・純資産合計	11,951

◇損益計算書◇

(単位:百万円)

科 目	金 額	金 額
営業収益	5,689	
(運輸事業)	(4,143)	
(構内販売事業)	(930)	
(ホテル事業)	(615)	
営業費用	5,249	
営業利益		440
営業外収益		51
営業外費用		61
経常利益		429
特別利益		0
特別損失		83
税引前当期純利益		346
法人税、住民税及び事業税	160	
法人税等調整額	17	177
当期純利益		168

【参考1】立山貫光ターミナル

◇貸借対照表◇

(単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	388	流動負債	164
固定資産	1,471	固定負債	359
業務用固定資産	1,161	負債合計	524
投資その他の資産	309	(純資産の部)	
		株主資本	1,397
		資本金	900
		利益剰余金	497
		(繰越利益剰余金)	(497)
		評価・換算差額等	△ 62
		純資産合計	1,334
資産合計	1,859	負債・純資産合計	1,859

◇損益計算書◇

(単位:百万円)

科 目	金 額	金 額
営業収益	2,251	
(ホテル立山)	(714)	
(弥陀ヶ原ホテル)	(377)	
(飲食収入)	(406)	
(物品販売収入)	(571)	
(その他雑収入)	(6)	
(賃貸収入)	(174)	
営業費用	2,213	
営業利益		37
営業外収益		13
営業外費用		3
経常利益		48
特別利益		0
特別損失		1
税引前当期純利益		46
法人税、住民税及び事業税	10	
法人税等調整額	△ 6	4
当期純利益		42

立山黒部貫光 (連結)

◇貸借対照表◇

(単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	1,189	流動負債	1,374
固定資産	12,044	固定負債	3,135
業務用固定資産	9,748	負債合計	4,510
投資その他の資産	2,295	(純資産の部)	
		株主資本	7,550
		資本金	4,160
		利益剰余金	3,711
		自己株式	△ 322
		評価・換算差額等	755
		少数株主持分	417
		純資産合計	8,723
資産合計	13,233	負債・純資産合計	13,233

◇損益計算書◇

(単位:百万円)

科 目	金 額	金 額
営業収益	7,795	
営業費用	7,307	
営業利益		487
営業外収益		60
営業外費用		65
経常利益		482
特別利益		0
特別損失		85
税引前当期純利益		397
法人税、住民税及び事業税	170	
法人税等調整額	11	182
少数株主利益		2
当期純利益		211

注) 連結決算の対象会社は子会社の立山貫光ターミナル(株)、および立山黒部サービス(株)です。

3. 平成21年度について

(1) 安全の確保

平成21年4月25日、弊社高原バスが立山高原道路で脱輪し、お客様にお怪我を負わせるという事故を引き起こし、皆様方には大変なご迷惑、ご心配をおかけしました。

弊社におきましては、あらためてお客様の安全・安心をお預かりしている責任を強く認識し、今後二度とこのような事故を起こさないよう安全対策の徹底をはかり、お客さまから信頼していただける立山黒部アルペンルートとなるよう取り組んでまいります。

(2) 営業再開日および目標人員

4月10日 ・立山～弥陀ヶ原、扇沢～室堂間 部分開通 ・ホテル立山、弥陀ヶ原ホテル営業再開
 4月17日 ・立山～扇沢間 全線開通
 ・宇奈月国際ホテル 通年営業

【アルペンルート入込目標人員】

(単位:人)	平成20年度 実績	平成21年度 目標	増減	前年比
目標人員	1,015,500	1,016,000	500	100%
富山入込	529,100	526,600	△2,500	100%
大町入込	486,400	489,400	3,000	101%
・富山入込は、訪日旅客の減少を見込み2,500人減少。 ・大町入込は、個人旅客の増加を見込み3,000人増加。 【国内外内訳】 国内916,000人(前年比103%) 訪日100,000人(前年比78%) ※訪日については、景気の後退の影響が続き、厳しい状況が予想されるため、マイナス目標とした。				

①国内客誘致

国内旅客の増加を図るため、特に募集型ツアーによるお客様を増やすことが重要な鍵とみて、大都市圏からの誘客促進を軸に、大手旅行会社および鉄道、バス、航空など各社に対し、アルペンルートを組み込んだ魅力的な旅行商品造成を働きかけるとともに富山県等と連携し積極的な営業・宣伝展開を進める。また、個人旅客・地元対策としては、立山の大自然をより身近に体験できる企画・イベントの充実を図り、更なる誘客に努める。

②海外客誘致

世界的な景気後退や、円高による訪日観光への影響が懸念されるが、本年も引き続き国の「ビジット・ジャパン・キャンペーン」事業、富山県の招聘事業との連携によるプロモーション活動を、台湾を核として韓国・香港等で実施するほか、中国、東南アジアに営業活動を広げ、積極的、継続的な誘客活動に努める。

③ホテル宿泊目標人員(立山貫光ターミナル)

(単位:人)	平成20年度 実績	平成21年度 目標	増減	前年比
ホテル立山	34,345	34,350	5	100%
弥陀ヶ原ホテル	15,851	15,850	△1	100%
宇奈月国際ホテル	29,290	30,850	1,560	105%

以上